

バングラデシュ

災害、災害予知・対策、違法行為の相関関係から考える

高田峰夫（広島修道大学）

バングラデシュの災害について、簡単な報告を行った。初めに、個人的な体験に基づき、バングラデシュの災害について大まかな分類を提示した。災害を生じさせる主要要素として、とりあえず気候、地形、社会経済的要因、歴史的要因を同定する。その上で、自然災害では、主に気候に起因するものとしてサイクロン、高潮、竜巻、旱魃を、気候プラス地形要因に起因するものとして溢水(例年の周期的洪水)、突発的洪水、土壌流失を指摘した。人為的災害では、主に社会経済的要因に起因するものとして大規模火災(スラムへの放火等)とフェリー沈没を、気候プラス社会経済的要因に起因するものとして飢饉と疫病の流行を、さらに、政治的要因プラス歴史的要因に起因するものとしてコミューナル暴動と民族紛争を指摘した。また、以上の分類には収まらないものの、自然的要因と社会的要因が密接に絡む形で砒素汚染及び塩害が現れていることにも言及した。その上で同国の歴史上、画期的な災害を簡単に振りかえってみた。また、ほぼ毎年発生する災害についても概観してみた。以上から明らかになるのは、バングラデシュにおいては災害が極めて大規模に、しかも社会的に組み込まれる形で、歴史を通じて発現し続けている、との事実である。

これに続き、約15年に亘るフィールド体験の中で遭遇した多様な災害を回顧し、そこに広義の違法行為が影を落としていることを指摘した。いくつかの事例を検討したが、ここで一例を挙げるなら、公有地(主に低湿地)を不法に占拠・居住する例が多見されるが、その結果、水害被害が生じやすく、また疫病も発生しやすくなるのである。

違法行為は、一方で災害に被災しやすい状況を生み出したり被害を拡大し、他方で災害予知を困難にしたり無効化し、または災害対策やインフラ整備等の開発事業成果を脅かす可能性が大きいのではないか。だとすれば、違法行為を排除すること自体が防災事業になりうる可能性がある。ただし、バングラデシュの場合には国際比較によっても社会全体に腐敗が広がっているとの指摘があり、結果的には、これが災害予知・対策の有効性にも大きく影を落としている。



低地の違法占拠と洪水被害